

刊 夕 日 一

河陸軍の各市街砲撃

等に對し授爵 陸爵叙勳御下賜
等の恩典を行はせらるゝやに漏
る(東京特電)

其の程度未だ判明せず
 傷及び家屋の流失なきも
 害は多大なる可きが交通

川村伯の動靜 貴族院露見


満月堂、善竹橋等を觀覽し即日歸したるが一行に對し保勝會よりは

各地に水害の慘禍を傳ふることを期す。種々の普及豫想以上の好成績にて全

の筈にて受験志願者は七十四名に
試験科目は法制讀書地理歴史數

▲ヤンクハ氏 薩戸タロニクハ 薩戸長。一府上
▲マリソン博士 支配政府顧問。一日朝金剛
▲小田省吾氏 編輯課長。東京帝國及び長

山へ
地



三ノヤ自転車店

電話二二三番
月賦販賣及月貸自轉車は御相談上候
第店員參上仕り特に

發行所
東京日本通一丁目
三六六番地
電話
二六六番

我國の地方の僻する所に朝鮮、臺灣、將た滿洲何れの地方にも、富饒に於て既に素地ある工業は勿論、前途有望の事業に就て其改良發達を促進するの必要を認め、中央試驗所の開設を見るに至れるなり、斯くて新政以來漸次此種の企業に對する機運を騰起し、製糖業、榨油業、製陶器、皮革製造、醃造業、其他蘆草パルプ、荖草製造、各種の工業につき整備せる組織を以て各種の工業につき整備せる組織を以て

種と朝鮮とを問はす、一般邦人の此種施設を眞に理解する者今日と雖も甚だ數きは、遺憾至極と云ふべく之れ邦人の道德的思想の乏しきに因る事多きは勿論ながら、近來人の如き工業試験に關し一般に興味を有する者多く、他國の植民地を視察する者必ずや中央試驗所に就いて熱心

昨年十一月本社不慮祝融の厄に遭ひたるも十萬愛
讀者諸君の爲に倍々奮闘努力平常の眷顧に酬るん
とし今日に及びたるが其間同人の恪勤と江湖の贊
翼とに依り直に再築に著手したる社屋も愈々旬日
ならずして落成を告げ太平街頭巨然として前日の
雄姿を現すに至らんとするは洵に欣慶に堪へざる
處也されば今回聊か自祝の意を表する爲め來る十
月一日より十日間再築落成號を發行し更に一層紙
面の體裁記事の精選報道の迅速正確を期し以て江
湖の愛顧に酬るんとす是れ同人の微衷に外ならざ
る也敢て再築落成を報じ併せて倍々江湖の御同情
を冀ふ敬白

京
城
日
報
社

昨年十一月本社不慮祝融の厄に遭ひたるも十萬愛
讀者諸君の爲に倍々奮闘努力平常の眷顧に酬るん
とし今日に及びたるが其間同人の恪勤と江湖の贊
翼とに依り直に再築に著手したる社屋も愈々旬日
ならずして落成を告げ太平街頭巨然として前日の
雄姿を現すに至らんとするは洵に欣慶に堪へざる
處也されば今回聊か自祝の意を表する爲め來る十
月一日より十日間再築落成號を發行し更に一層紙
面の體裁記事の精選報道の迅速正確を期し以て江
湖の愛顧に酬るんとす是れ同人の微衷に外ならざ
る也敢て再築落成を報じ併せて倍々江湖の御同情
を冀ふ敬白

並に輸出銀行調査
 貿易の大勢
 蒲羅斯德の貿易
 易は數年前より年々遂に順調に發
 年次
 一九二二年 三億七千九百九十九萬九千九百九十九圓
 一九二三年 三億七千九百九十九萬九千九百九十九圓
 一九二四年 三億七千九百九十九萬九千九百九十九圓
 一九二五年 三億七千九百九十九萬九千九百九十九圓
 一九二六年四月迄 三億七千九百九十九萬九千九百九十九圓
 備考 留の下落物貿易の騰貴及び輸出の増
 したるが爲輸入貿易の重量の増

[illegible]

二 日 報

刊 八 七 七 八

發行所 東京 日本橋區 本町二丁目
電話 三三三三
東京 日本橋區 本町二丁目
電話 三三三三

印刷 東京 日本橋區 本町二丁目
電話 三三三三
東京 日本橋區 本町二丁目
電話 三三三三

東京 日本橋區 本町二丁目
電話 三三三三

東京 日本橋區 本町二丁目
電話 三三三三

地、海、陸の交通、貿易港として及び北洋諸島を占めたるに過ぎざりしに千九百十三年下半年に於て勃發したる大戦亂は「バルチック」海及び黑海諸港の外國貿易を杜絶せしめ爾來白海に面する「アルムラツク」と共に頗ぶる重要なる各港口となり、朝鮮の主として我國貿易に當るに非ず、日米其他の諸港に由りて行はれ今や露國東部は陽謀に便給

[illegible][illegible]

總章折込小冊
 出最上製函入
 金壹圓七拾

全
 部
 改
 版
 愈
 發
 賣
 帝
 國

萬年毛筆
タイー
曩に五千本を限り特賣
たれば各位の御厚情に
販賣可仕候間相變らづ

發賣所
京都市
振替

元々本舞臺の六法として江湖に多
なり切實に以來大方の渴望を缺き遺憾
根柢の力を盡して漸く本書成るに至
る見出附熱筆華天金、脊草上製三種を

拾錢
（總重折込）
天金上銀
金壹圓五拾錢

買出しの本品は非常の好
 物ゆゑ製造元と交渉し
 御用命ありなし
 公平通算丁目
 米採三〇〇番
 大の高評を博せ
 せられし所
 一大打正を加へ
 今大改正本總
 撰ひ愈發賣す
 全一冊 正價金
 工場
 新刊

金壹圓參拾錢

上製
存車

附通樹一區田神市京東
閣斐有

金十二錢
送料各

計にて愈々全部を賣盡し
引續き特價六十四錢を以

日報社代理部

法規

本書は本年九月一日工場法及び
施行令並に其附屬
法規を一括收載し
補抄小形の良書也

七錢
法規
五錢
二錢

りとも難く開戦の結果一朝交通を斷絶し、鉄に全く露國斯德に對する勢力を失はにせられ然し獨逸が多年萬般の努力を以て官民協同して露國に扶殖せる經濟上の根柢は頗る深且つ堅なるものがあるが故に戰後情情回復と共に更に權土重來の期あるを思はざるべからざるなり

△米國貿易の増進　昨局に少しも關係なく米國は權力、交戰國の注文に應ずるに尤も便宜なる地位にある。且つ「パナマ」運河の開通により米國東部工業地に於て製造したる貨物は海路直に浦羅斯德に入船し得ることとなり従来歐羅巴バルチックの海運諸港より輸入せる棉花の如き巨額の貨物を尤も有利に尤も容易に常港に輸入し得るに至れり昨年の實況に見るに米國は對露貿易に於て第二位におり我日本第一位を占めたりと雖も今や我を凌駕せんとするの勢を示すに至れり就中棉花の如き

[illegible]

意の日烈霜秋此者識の下天
朝鮮朝
頁十四々堂 滿國 本 九月號

民の一大歡喜。小宮次官、
 朝鮮統一と國運の發展、博士、
 二億五千萬圓の巨費を投ぜる、
 發の重要機關たると同時に鐵
 此局を管掌する長官に大屋權示
 腐敗朝鮮鐵道
 談合事件暴露し鐵道局暗雲に
 亂情弊百出是れ實に天下の非
 並に朝鮮總督に告げて斷乎不
 問題の
 論争點
 氏之論議
 度支總局常務
 支那家數
 國稅論争點
 氏之論議
 度支總局常務
 支那家數

<p>大屋長官 朝鮮水害の慘狀 天狗列傳 附新刊 同胞</p>	<p>海の巨富 主と店員の新傾向 朝鮮鐵道は殖民地開闢 亞連格の一大幹線也 其人在り。突如 公論</p>	<p>道局 包まる局内官紀案 途也即ち内閣諸公 の改革を促す鉄文筆 鐵業界界 酒稅令 浦鹽</p>	<p>浦鹽行 本館 川本</p>
---	---	--	---------------------------------

の在る所なり。朝鮮の中央試験所は明治四十五年の設立に依り、總督の管理に屬し、工業に關する試験分析及び鑑定之事務を掌る。本来朝鮮の工業は高麗朝時代には頗る發達せしに拘らず、明時代には漸く衰へては幾かに凋落し、近年に至りては幾かに復興の機あり、農業、製紙業、金屬工業等を存するに止まり、且つ幼稚にして產額亦多からず、生活資料すら其の大部分は輸入の狀態に在りて、工業の發達上忍せしむ可らざるを以て、明治四十一年統監府時代に

て事業を経営し、又は著手せむと
する者増加するに至れり。中央試験
の創立以來、年所を経るに久しか
ざれども、上下職員技術者の眞摯
心なる努力は、日に月に其の成果
現はし、遂に工業技術に應用化
基他に於て、朝鮮の工業技術を進
外國輸入品の跳梁を防遏するに足
代用品の製出法等、邀積の見るべ
もの頗る多し。

擢の如く中央試験所は當業者の
針盤として既に業を有する者にも
新たに企業に當らむとする者にも

す所を以て、
に於て工業試験の施設を完全なら
むると同時に、必ずや別に存在し
て相應じて産業の進歩を計る機関
を設けざるの一事は顧みて吾人の師
不満足とする所なり。其機関とは
濃縮機、攪機を指す。而して吾人の
主眼は原料、中間製品、の需給關係
生産物の製造取引に至るまで一切
調査を爲す所の機関を云ふ。此事
つきては改めて説く所なりとす

更に列國の前途貿易に對し眼前に著しき大勢の變化を見るに近き東に於て著しき程度を以て南極眼する獨逸は戰亂の爲に全其勢力を失墜し最近徐々に復讐し來れる露貿易は國交の親善を加ふること愈々貿易額を増大し北米合衆國歐洲諸國にバナマ運河の開通に非常なる進歩をなせること之れなる現象なり

△獨逸の失勢 獨逸は諸國に對し著しき大勢の變化を見るに近き東に於て著しき程度を以て南極眼する獨逸は戰亂の爲に全其勢力を失墜し最近徐々に復讐し來れる露貿易は國交の親善を加ふること愈々貿易額を増大し北米合衆國歐洲諸國にバナマ運河の開通に非常なる進歩をなせること之れなる現象なり

器類、織及び鑄製品、藥材、其他建築材料、化學製品、藥材、紙類、及び文

此に比
年毎
を擧
勢力
共の日
は歐
由り
顛委
機械
築材
眞

露國總輸入八千八百萬留に對
割六分を占め、今や殘んだ獨占
なれば殊に従來より供給した
糸粉織物を主として大口の販賣
綿花を模倣織機其他大口の出
々として米國の手に移るに至
ひ驚くべきものあり

日 報 歌 壇

(原田文治京助)

夕涼し旅の心を泣くによしき
山の圓き月の出

天地にわかれど山また山のいへ
地れどねれの何をか喝仰る
大空を過ぎ行く鳥よ汝れは
たれし身のうれしからまし

天下の絶勝
金剛山へ
京元線平康驛より吃
自働車を過す
平康末端より(金剛山入口)間貨
車二台金三郎三郎三郎二人の乗客一人
乗客三十三人乗客五人乗客五人
平康京城間毎日定期運轉す貨
車一人金三郎三郎三郎三郎三郎
何れも上下汽車時間に接續す
平康車正午十二時開車正午二時開車

諸事御照會に
電話九六五番

臨時
金如左
銀四十萬圓
金十萬圓
五十鎊
金片道
如左
番へ

何と見る

論

旬報

大阪市東
大正市
出銀所所在地

債券

勸業債券
買値
四十四圓
四十四圓
五十二圓
五十四圓

本堂先生の青年戒書第二章に
 中央大學園(活人物)
 有利なる果樹栽培秘訣
 持久久
 人世
 探訪
 口入屋の帳
 購讀申込所 通二丁目朝餉
 京坂太平朝餉
 特別高價買入
 五十八回 〇五
 六十二回 〇五
 六十四回 〇五
 當該段九月十日(限)
 區南久太郎町二丁目(牌
 六四三番地)九通四條上
 京都市烏丸通四條上

入る客山

鑛業

發原の久
展鐵小瀧

大坂市元町通六丁目電本局三三八番

所長
 受取客山
 試み得
 月樂す
 金にす
 營業受
 八二番
 社

債券

勸業債券特別高價買入
 貯蓄債票
 段值五十四圓 六十八圓 二〇五圓
 五十五圓 六十六圓 二〇四圓
 五十四圓 六十三圓 二〇三圓
 當該段九月十日限

本社獨特之興味と實益を加味せる勸業債券の月賦取得に便法を講じ、少くとも必要に應じて毎月償還金を樂しむることを待たずして必要に應じて毎月償還金に對する取相當の利を加へるには契約の日より前拂込金に對し御申出の至るまで其當金は直ちに受け取り、御申出次第進呈)

大阪証券株式會社

大阪市東區南久太郎町一丁目(原) 電話東京四番八號大阪二九四一
 出張所所在地：京都市長見通四條上ル電中三五三八番 神戶市元町通六丁目鹽本屋〇八二番

木堂先生の青年戒念々第二章に入る
 中央大學園 活殺評 泰山閣 客 鑛業 發展 小淵所長
 有利なる果樹 久次米 技師 滿洲見聞記 買鑛 泰 客山
 栽培秘訣
 人世 探訪 口入屋の帳場 記 意外 意外 上 發展 客
 入居る一美人 記 者
 購讀申込所 京城太平 通三丁目朝鮮公誦社 電話四二四〇番 一五七七番

と氣意の日

公

頁
▲談合事件暴露し鐵道局暗雲に包まる局内官紀案
▲瀧情弊百出は實に天下の非違也即ち内閣諸公
▲並に朝鮮總督に告げて斷手なる改革を促すの快文云々酒稅令付

口夏國境縱走記 廐室 君川
口酒稅問題の 廣安部 濱岡
口酒稅論爭點 氏之論議家數

浦鹽行 け 閩 川本 地内
口鎖業界 口鎖業便り

分木 下天 青 大養 堂
口京城地人錄 該錄京畿城下所屬之處
口回想譜 茲錄最近旅歴の事

一服五錢

鮮魚
 口滿鮮 統一と國法華 水野 鮎太郎 店主と店員の新傾向 佐賀長
 運の發展 博士 鮎太郎 店主と店員の新傾向 佐賀長
 一億五千萬圓の巨資を投じて朝鮮鐵道は殖民地網
 ▲發の重要機關たると同時に歐亞連絡の一大幹線也
 ▲此局の奇掌する長官に大屋權平 其人在り。突如
 朝鮮鐵道局 割解 奇談 人物短評
 朝鮮鐵道局 割解 奇談 人物短評
 朝鮮鐵道局 割解 奇談 人物短評

朝

男女貞操問題 大部早 當世天狗列傳 時岡欣堂
ヒステリー新研究 神安 滿洲 貨幣問題に對す 井上正金
國王の一大歡喜 小宮次官 母と子 生月水

李王婚約同胞

告に朝野へ
論社移へ
救護山

九十九十四五一年前册六 錢

總章折込不掛見
 出最上製 國入
 金壹圓七拾錢
 總章折込
 金壹圓五拾錢
 春草上製
 金壹圓參拾錢
 透料各
 金十二錢

特別倍號百七十頁
 而も價格は例月の通り僅に二十五
 錢朝鮮公論は不偏不黨の大難誌也

九月號
 新協約後の浦鹽港
 李王家の御筆
 暗雲に包まる鐵道局大屋
 朝鮮水害の慘狀

統軍亭の記者團
 南鮮水害の慘狀

全愈發賣 帝國 法律全書 東京市神田區一橋通町
有斐閣 (點售)

て販賣可仕候間相變多御用命めいたし

發賣所

京城太平通壹丁目
振替京城三〇〇番

京城日報社代理部

元々本無誤の法として江湖に多大の好評を博せ
る。切實以來大方の渴望を喚起し遠く迄に経販せ
る。附後全力を盡して半條の長きに亘り一大正を
根本の改造を爲し漸く本條成るに至る。今正を
早見出用。總重天金、脊正上製三種を撰び盒發賣す。總


最新刊圖

工場法規

本條は本年實施
九月一日より
施行する工場法及
同施行令に基
て採集小形の良書也

全一冊 正價金七錢 送料別

タイコー
萬年毛筆



囊に五千本を限り特價賣出しの本品は非常の好評にて愈々全部を賣盡したれば各位の御厚情に酬ゆる爲製造元と交渉し引續き特價六十四錢を以

土國對羅宣戰布告

一、土國古日羅馬尼亞對土國宣戰布告(電報)
羅馬尼亞對土國宣戰布告(電報)
羅馬尼亞對土國宣戰布告(電報)

露軍羅國通過開始

獨逸軍土古軍聯軍通過開始
獨逸軍土古軍聯軍通過開始
獨逸軍土古軍聯軍通過開始

飛機投彈 佛軍前進

飛機投彈 佛軍前進
飛機投彈 佛軍前進
飛機投彈 佛軍前進

蒙匪軍再舉計畫

蒙匪軍再舉計畫
蒙匪軍再舉計畫
蒙匪軍再舉計畫

大統領の提案

大統領の提案
大統領の提案
大統領の提案

大演習幹部任命

大演習幹部任命
大演習幹部任命
大演習幹部任命

兩陛下還幸啓期

兩陛下還幸啓期
兩陛下還幸啓期
兩陛下還幸啓期

訪露團の歴訪

訪露團の歴訪
訪露團の歴訪
訪露團の歴訪

逃走獨兵

逃走獨兵
逃走獨兵
逃走獨兵

荷物移出手續

荷物移出手續
荷物移出手續
荷物移出手續

鮮鐵動向

鮮鐵動向
鮮鐵動向
鮮鐵動向

滿鮮露巡遊所感

滿鮮露巡遊所感
滿鮮露巡遊所感
滿鮮露巡遊所感

東拓工事段落

東拓工事段落
東拓工事段落
東拓工事段落

浮塵子發生

浮塵子發生
浮塵子發生
浮塵子發生

旅團新築官舎

旅團新築官舎
旅團新築官舎
旅團新築官舎

金山埠より

金山埠より
金山埠より
金山埠より

朝鮮鑛業要覽

朝鮮鑛業要覽
朝鮮鑛業要覽
朝鮮鑛業要覽

朝鮮鑛業要覽

朝鮮鑛業要覽
朝鮮鑛業要覽
朝鮮鑛業要覽

漢農支店利下

漢農支店利下
漢農支店利下
漢農支店利下

改訂と淘汰

改訂と淘汰
改訂と淘汰
改訂と淘汰

南言北語

南言北語
南言北語
南言北語

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

對支外交と對支外交

對支外交と對支外交
對支外交と對支外交
對支外交と對支外交

警務總監部衛生課技師 瀨川平造氏

に病毒の絶滅を計るのであるが之れに對して各個人は各自個人衛生を嚴守して病に冒されぬ様に勉めなければならぬ。虎列拉菌は非常に繁殖力と伝播力を持つて居るが菌そのものと抵抗生存の力と其に

纖弱であるから、嚴防以上と見ると、其れだけの便宜がある。關がある。北
里博士は、曾て仰つて居る、虎列剌を豫防するには、何が一、猪大野か、と
云へば、**釜の胃を健全にするのが最も必要な事である**、と云
つて居るが、**釜**、其の通り、胃の強健に人になる、と少し位、コレ、**關**が違

入つても固は皆な胃から分泌する鹽酸の爲めに死滅して終へ虎列拉菌は酸類に對しては非常に弱いからである併かし乍ら胃の弱い人は胃中の鹽酸分泌が不充分である爲めに菌は死滅し切らずに腸に入るから茲に繁殖して甚毒を人體に與へる事になる故に平生から食物を節制し健全の胃を培へて置くは素より大切の事であるが食後少しばかりの梅干を食ふとか酢の物を食べるとかする事も亦ニラ流行期に於ては必要である。さうかと云つて

マコレラ豫防の爲め　だからと云て無暗に酸い者や酢の物などを食へると之が亦胃を悪くする根となるのである。兎に角亦酢や鹽漬扶斯の齒は胃液位では却り死なぬがコレラ菌は胃液に遭へば死滅すると云ふ事は豫防上の一便宜である。斯云ふ世間の人達は其れながら自分は胃病ではないから胃が健かだと云ふ人が少くないがそれ等の人達が持つて居る胃は自分だけ胃病を患はないから強いと考へて居る。

つてもそれは學術上から云ふほんどうの健固な胃だとは申されませんから強い人は更にその上にも胃を強くし弱い人は一層注意して強い胃に爲る事に注意しなければならぬ。自から健胃を過信して居るが飛んだ事に
なる、コレラの傳染は皆な飲食物と共に口から這入るのであつて其他の
處からは傳染しないから用心するのは口である。生魚は何れの場
合でも甚だ危険であるが殊にコレラ病を有する近海から取つた魚は
は其の魚腹中には素より外面にも多くの

ヲコレヲ菌カビや附著ツケ　して居ると思つて居るが宜いコレ
 ラ菌は海水中に於ては長時間生存し且つ濃薄ながらも其の繁殖を繼續し
 て居るからである。果實、眞瓜等け胃を害し腸を害するが
 其れ自體が直ちにコレラ菌を口中へ運ぶ仲介を爲すものですから能く
 事々ら絶體に喰べない方が宜しい此の他に生水、腐敗した
 食物などは今更申すまでも無いしかし世の中には随分無頓著マダマダの人が多し

かばコレラ菌が人に伝へるの人は、足を踏見舞ひして廻るのである、愈々コレラが流行して来るに、單に患者計りが怖しき者ではない、**人全體が悉く危険なもの**と見て、**差圖**（さずく）ない何故と云ふのに多數の人の腸には菌保有者と云ふ者が居るこれは虎列拉ばかりではないが病菌が一度此の保有者の腹の中に侵入すると其の腹は全く病菌の住家となつて絶たず病菌を體外に排出して居りながら本人は一向平氣を働いて居るといふ、即ち其の病氣に對する免疫性の人である

▽此れが甚だ危険　であるから如何なる場合と云つても油斷して身體を粗末に取扱つては成らぬ斯んな風に近き内地に流行が烈しいから何時内地から此の菌の保有者が來て居るか分らない一體日本や朝鮮に於てはコレラは昔から輸入菌であつて風土氣候の關係上長い年月の間菌の生存を許さぬ事になつて居る然るに一度流行と共に其の蔓延も亦流行する様な場合があるが之れは例の菌保有者の體內で病

●
解放されて
歸途に就く
汽車中の賑ひ

先づ、無事でとニコニコ顔

に同縣發五回卅八分の列車三等車各輛立を連結して恰度鰐の島の旗ざれし如く京城に向け寄々として出されしなりとの報を得て一同を軍港場發したりとの報を得て一同を軍港場縣に出迎へて二三の人の語を聞くことしたるが何れの人々も水原縣警察員の親切なる取扱に對しては滿腔の買はぬやうなる大汽車の食堂で濟すやうにと注意して参りましたが遂に朝顔に来て此様なことになりました二日間の離離に于て往還は充分無理も申しましたけれども御座様に嚴重な消毒や健康診断等の手當もして、眞き安全だとの保證をして貰ひました

閑意を表して居た。
 ▲深川府尹曰　く内地に於ける虎流布は大變なものにて人々の神經も却々過敏になつて居るが併し吾朝鯨計りは大丈夫だと思つて居る矢先に此如來だ、全く驚かされて終ひましたよ、新嘉坡の宅の方には只
 ので安心して京城に歸られますことを不韋中の幸と存じて居ります
 ▲花月の女將曰　娘を連れての旅の空に若しは虎列拉では取りつかれなんかしては取返しのつかぬこと早く京城に歸つたらど云ふことになりまして途中で見物したい所も

報告によつて四五日遅れるとの事、
船で云つてやつたので、今度の騒
ぎを聞けば定めの喫整することし
よう。水原では突然のことゝて種々不
便もあつたが幸ひ警察官達の親切な
處置によつて早く解放されたのは何
よりです。水原で足止を喫つてこ
そを東京の友人に打電した所が直ぐ
我恨して直行で歸つて来る所を
う。二日間足止されて終ひました
と江戸子と数六船をちゃんばんに
してホツと太い息をつく。何で
ちくさん云ふ人は大縫船中では元
氣の様に見たふ人ですのに處分拉
なにと取りつかれて早や死んで終つ
たとは何んと云ふ可愛うなことで

返道が来たのを見ると「水原の宿の秋風苦し」とあつたなどはせめてもの想ひでしたよ、いゝ、いゝ。

▲石塚長官夫人曰　東京では千駄ヶ谷の方に遷居し居ましたが何分段々と病状が蔓延して参りましたので危険でなりませぬのだとそれと云ふやうな聲でオ、キニ……やがて

おますやろ、などいふつて居る間に汽車は南大門前に着くと澤山の藝者が迎へに来て居る中からお園さんが一番先に出て娘はんほんまにエライ災難でしたんやなーと人より二倍程語尾を引ばると女將はさきも勞れたと云ふやうな聲でオ、キニ……やがて

二百十日の風に飛ばされし一葉なり

赤紫の波打つて茂り咲く萩の庭に盡きぬ清典
回春園に開かれた井出太水氏の送別俳句會
静趣いよく豊かならんとする網走の俳句ゆけば、半ば朽ちたる巨木の切株に
の秋に背いて近く歸東する碧浪の俳句ゆけば、半ば朽ちたる巨木の切株に
へ、太水井出前軍經理部長の送別俳句西日憂しう片照るあたり、崖城博士
俱の尊校もまゐりますので早く京城、皆々構外に散つて行つた

句會は大塊副總裁、崔城博士、大知居士諸氏の發起で三十一日、天長節の午後四時から總督府醫院の後庭回春園内に開かれた、云々として

◆秋の空　を摩す岩松の
秋の空は、赤坂の波打つて

の趣向になる回春園の俳座に集まつた者は客の台北、發起人の大塊、大樽、城、それに一氣、洪、虎耳、披、薄、我、島、宇、野、の諸氏、松、て、白、雲、の趣、觸るに切んぞ硬く直の刈萱、秋知り顔の栗鼠などり、の興情はいづれ趣向によさは

搖尾する金剛山等、到底山腰に入つては見られぬ川觀である。
 釜津の漁村六十戸は、奥田氏の大敗初て生活漁夫が上陸した、此の人達ばかり朝郎に上客す
 へた。といふて居つた。
 其處（下關から）入港した運糧船に四五十人の

[illegible]

◆茂り咲く 萩に及ぶべく
もあらずとてか、俳句の中央へ、虚城
博士の筆跡と思はるゝ「一句無きも
とつかぬ」
を吐き、臨無師
を啗つて句ねり、語るうちに興ます
く屈はる。頃目下入京中の生駒虚

平氏が退れば、その辭軒氏等と共に席に加はり、別室に於いて、氏一流の輕妙な俳諧を詠いて、之れに大塊の烏蜜、草木、一象、麒麟、その他の諧氏が諷刺の筆を揮ふなど頗る清興を添へた、此の日は送別會のためか、山城武士その他の人たちの間に例の新



草園に執つて持せぬ俳諧も無く、
 羊歯の畫いた松の間に

詠歸殿の 丹碧を遇らひ
 その下に秋の色を出した大福畫に盛
 んに寄せ書をするなど主客頗る大満
 足で秋を惜しました松の木の下で記
 念攝影を爲し離愁の意を寓した謝氏
 の室司可へ對し台詞氏は「二百十

のは一蕤あるべし秋の庭に庭の萩もさばり有つ秋の夕の二句が勝り出されてあつたが、先づ以て之が問題になり、是は今日の布合かそれと雖も題句かの詮議となつたが結局それが博士苦心の名時と判ると大であつた

●龍山驛で一千五百圓

共謀して窃取した二驛員の判決

龍山驛小笠原東山口村生れ龍山漢江
通り十六番地鐵道官舎合宿所居住の
山崎正平とは、大正三年九月より、
龍山驛往復驛夫として勤務した主任
員の指揮に依り各驛より發着の客
六箇月の判決となれり

出でたる現金一千五百圓在中の貴重
品の類格表ある小荷物中より右の
現金全部を窃取したる一件は、東京地
方法院にて正平は懲役十箇月、葉夫は

二百十日平穩

暴風發生の模様無し
河原觀測所の観測に依れば、一日二百十日の天候は數日來朝野附近は氣壓混亂を呈し大體各地降雷を催したりしが西岸部は三十一日朝已に天候回復中である。

昨連雨等に從事中三月末現金三千圓在中の計狀一通を發取し本年七月十一日には同縣小荷物保置員を動め居れる愛媛縣番多郡五十餘村生れの人々共とて去郷したる川根澤戸町所住の不興業株式會社江尻支店より京長練土城驛前安増商店武末某に於て是

京仁大木北
城川邱浦名


金法(柳氏)
二二度
二〇度
二〇度

天象
晴雲
晴雲
無風

風力
靜穩
軟風
軟風
無風

古本
高價買入
京城本町三丁目163
東京堂書店

京城旭町二六六
ハイン萬年筆出張所
16


 下長坂元町
 御橋若山街

天勝來る

二五度 九九度 九八度 九八度
 時晴 時晴 時晴 時晴
 無風 無風 無風 無風

古本熱心高價買入 御親筆上 16!
 江戸版七名堂 吾其印書堂
 本町歴書九名堂 三七八八入居書堂
 石印熱心法 希求者 御親筆上 16!
 油印熱心法 希求者 御親筆上 16!
 本町歴書九名堂 三七八八入居書堂

館に出版して好評を博したる升
州の新聞記者として活動する
等地方を無業ななりしが、到
所にて「呻吟語」一面の題で雑誌に文章
有る上に於て來三日より七、五五日間刊
行の新聞紙に大の成功を敵り得たなりと
今般に會ひて東京より大々たる一冊を
新裝作製想大躍進だんぱん一擧を企圖と
して出てくべし物なりとの
言ひは聞かぬ。此の點がわからざるは

有益商業者川柳版出版驛前馬場商會
年三十三歲元祿實にして多年有
店員募集 年廿二歳より三十歳迄 149
販賣に充分経験ある者一人來談
大相訂二丁目 高橋屋敷酒造所
製菓に精熟ある者二人入用
○青葉丸二丁目 大橋 三番地 53
男女入用 服染物に經驗ある者數名
採用す本人面談要保証人

▲女鳩後編上場

和合屋第一部一行の本橋、新小説文藝の演劇は、
 演劇界の第一流の女優、新小説文藝の演劇は、
 演劇界の第一流の女優、新小説文藝の演劇は、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

金和町三の二松屋鏡神田親光房、
 金和町三の二松屋鏡神田親光房、
 金和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲松江里光州自動車は太田木浦間

凡ての列車、光州自動車は太田木浦間、
 凡ての列車、光州自動車は太田木浦間、
 凡ての列車、光州自動車は太田木浦間、

▲光州加藤自動車運轉部

光州加藤自動車運轉部、
 光州加藤自動車運轉部、
 光州加藤自動車運轉部、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

▲大和町三の二松屋鏡神田親光房

大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、
 大和町三の二松屋鏡神田親光房、

[illegible]

▲黄金館 三一日より全部換原と差替へ
▲金貨の主なものは如し
▲金貨の相場概算 東京小札相場 経済同盟
三六二 日銀換入形 ▲國貨店換入形 金銀十五
十六日 郵政附形 郵政附形 東京小札 郵政
換入形 換入形 換入形 換入形 換入形
換入形 換入形 換入形 換入形 換入形

八月三十日と云ふ
日は何んたる 雲日
であらうぞ 恰度
今から七年前の明

原木賣却 御馳馬江村三萬五千
に御座をありて賣却 御座の方左記
三百四十番地 京城廣々町154
小林里大町154

每月見知らぬ勸業債券
月就報國公債株式會社京城總代理店
販賣店募集 京城若草町百六

樂器買入 古オルガン、ピアノ、洋

虎列拉患者を出して遂に千七百七十五名之に傳染した其内内地人の患者は僅か五十名内外(在任者も少かつたが)であつた。朝鮮人の數に至つては殆んど調査のしやうがなく、總監府は光福門と西小門とに調査

を立たせて置いて死骸の數を數へた程の慘狀であつた▲虎刈拉來する一の報は非常に市民の神經を閑したと見ゆ生物や魚類は危險だとなつて▲野菜や魚類は實行禁止の面白からすれど反對に肉屋の前には押さなうの底无

礦山技術員
長として給する希望者手月五
十圓以上給する希望者手月五
記(電話)芝生支局宛 146

募集同二東一貸家
落地区に直三四〇坪の新築の
九人同家電氣完備和洋室の
者は同道諸人に問合あれ(電話)三六番

養蚕と經綸ある者採蠶
左

電報 147

ABCより教授 上級補缺あり
南大門通一(漢城銀行前)京城青年會
礦物定量分析

京城府太平通(朝鮮公論社左小路)
 一三四番 坂元分拆所
 手輕く遊べる遊川舟 123
 人の舟賃卅錢五人乗以上
 人乗迄變を備へ御用達屋形
 龍山電車終點電五二八賃舟共樂社

[illegible][illegible]

新刊圖書
 院主 松岡繁太郎
 入院隨意 吉野町市立松岡醫院
 內科小兒科 吉野町市立松岡醫院
 外科花柳病 吉野町市立松岡醫院
 本院隨意 吉野町市立松岡醫院
 定價 一五〇〇
 著者 志賀重昂
 名 著者 志賀重昂
 法 著者 志賀重昂
 水 著者 志賀重昂
 山 著者 志賀重昂
 新刊圖書

[illegible]

蒲潮郡德事情 酒醉人三〇
大ナボレンの妻 永代計此 六〇
京城不町二南 津實全考八〇

電話一六六番振替行銀 四五四番

補缺入學を許す

立私立
京京京
城城城
中中中
等等等
夜夜夜
學學學
校校校

京城南大門內(電話一七八九番)

期日正 雜塗料 無料 京城本町二

電話二一九五番 經營 京城一二八三番

正氣堂名刺舖

